



15. 陸運倉庫

業界動向

今後の見通し

国内市場動向～人件費など増加コストの価格転嫁が進む

国内貨物自動車輸送量は長らく緩やかな減少傾向にありましたが、足元では堅調な国内景気やEコマースの拡大等を背景に下げ止まりつつあります。もっとも輸送の多頻度小口化の進展により効率性が低下しているため事業者の負担は増加しています。特に宅配便市場においては、取扱個数の増加が続く一方で、労働力不足は一段と深刻化しています。

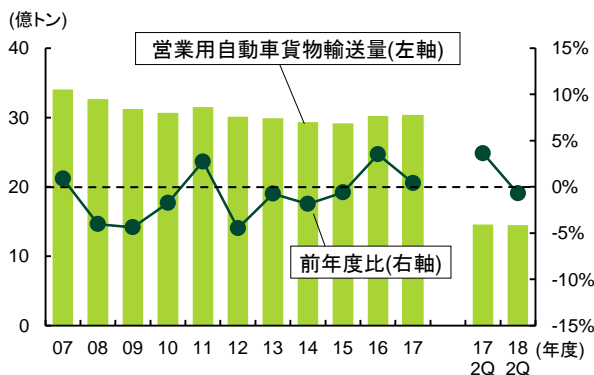
ドライバー不足に対する危機意識は荷主にも広がりつつあります。このため足元では人件費や備車費等の増加コストの転嫁が行い易い環境となっており、各社の業績は総じて改善傾向にあります。また今後は、ドライバー不足が一段と深刻化する中で、輸送能力の確保や収益性向上を目的とした再編が徐々に増加していくことも考えられます。

技術革新による影響～新技術やシェアリングサービス等の導入動向

物流業界では深刻な人手不足に対応する形で、①既存業務の省人化・効率化に向けた様々な設備・機器(無人搬送機等)が開発・導入されている他、②シェアリングサービス(オンライン上で荷主とドライバーを仲介するサービス。物流版ライドシェア)など新たな仕組みも普及しつつあります。また、政府も、トラックの無人隊列走行の実現に向けた実証実験を行うなど、新技術の活用を支援・推進しています。

現在の物流業界では人手不足を背景として、ドライバーやトラック等のアセットを保有していることが競争上重要となっています。もっとも、中長期的に技術革新による物流事業の装置産業化が進むことにより、サプライチェーン全体での効率化(個々の技術の組み合わせによる最適化)に向けた提案力を有している企業や、シェアリングサービス等の新たなプラットフォームを逸早く構築した企業が競争力を高めていくと考えられます。

図表1 営業用自動車貨物輸送量・前年度比推移
～Eコマースの拡大等を受けて下げ止まり



出所: 国土交通省資料を基に弊社作成

図表2 物流会社ランキング(2018年度第3四半期)
～総じて業績は改善傾向

| 順位 | 企業名 | 主たる業種 | 売上高(億円) | 営業利益(億円) |
|----|------------|--------|---------|----------|
| 1 | 日本郵便 | 宅配 | 29,986 | 1,376 |
| 2 | 日本通運 | 総合物流 | 16,007 | 594 |
| 3 | ヤマトHD | 宅配 | 12,576 | 743 |
| 4 | SGHD | 宅配 | 8,491 | 620 |
| 5 | 日立物流 | 3PL | 5,358 | 241 |
| 6 | セイノーHD | トラック運送 | 4,655 | 261 |
| 7 | 近鉄エクスプレス | フォワーダー | 4,475 | 155 |
| 8 | 山九 | 3PL | 4,277 | 296 |
| 9 | センコーグループHD | 3PL | 4,006 | 158 |
| 10 | 鴻池運輸 | 陸運 | 2,190 | 101 |

出所: 各社決算短信(日本郵便は日本郵政IR資料)を基に弊社作成

図表3 物流業界における新たな技術の活用事例
～サプライチェーン全体での最適化が課題

| 政府主導の取組 | 内容 |
|------------------------------|---|
| トラック隊列走行 | 先頭車両のみ有人、後続車両は無人運転の隊列走行の実証実験(2022年を目途に商業化を目指す)。 |
| トラックバス(注)予約システム | 荷待ち時間削減のため、トラックの荷待ちスペースの予約システムの導入。 |
| (注)トラックと倉庫の間で荷物の積み下ろしをするスペース | |
| 検討中及び既に導入されている技術 | 内容 |
| 自動運転の活用によるオンデマンド配送サービス | 指定された場所・時間に荷物保管ボックスを搭載した車両で宅配便を配送。 |
| 庫内作業効率化ロボット | 低床式無人搬送車、ロボット台車、ピッキングロボット、スマートグラス、パワーアシストスーツ等。 |

出所: 国土交通省資料、各社プレスリリースを基に弊社作成